

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上9-9
評価実施期間：平成30年7月13日～平成30年12月11日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060672 B18060 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 30年10月現在）

事業所名： （施設名） 長野市綿内保育園	種別： 保育所	
代表者氏名： 加藤 久雄 （管理者氏名） 中澤 和彦	定員（利用人数）：125名	
設置主体： 長野市 経営主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和・平成 25年4月1日	
所在地：〒380-8512 長野県長野市若穂綿内6734-3		
電話番号：026-282-2357	FAX番号：026-282-2357	
ホームページアドレス： https://www.city.nagano.nagano.jp/		
職員数	常勤職員： 20 名 （専門職の名称） 名	非常勤職員 13 名
専門職員	園長1名	・保育士 18名
	保育主任1名	・給食調理員 3名
施設・設備 の概要	（居室数）保育室 8 調理室 1	（設備等）

3 理念・基本方針

<p>長野市保育理念</p> <p>安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。</p> <p>基本方針</p> <ul style="list-style-type: none">○健康な心と体を育てる 自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う○感じて考えて、チャレンジする力を育てる 好奇心や探究心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる○自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進 満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める○人との関わりを大事にする教育・保育の実践 自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりして、人と関わりを持つことに喜びを感じる教育・保育の実践○家庭や地域との連携

子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育て・子育て支援を行います

- 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します

長野市綿内保育園の園目標

- 言ってみよう

- やってみよう

- 失敗してもいいじゃない

- ・子どもが自分に自信を持って、自分の気持ちを相手に伝える。
- ・「やってみようかな」といろいろなことに興味を示し体験する。
- ・失敗を恐れず挑戦する。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当綿内保育園は長野市が直接運営する30園（内保育所型認定こども園1園・休園1園）の一つで、大正15年善法寺住職により季節託児所として開設され、昭和17年私立綿内保育園となり、通年保育を始める。昭和25年第1綿内保育園として新築、昭和31年綿内第2保育園を分園、昭和41年第1、第2保育園を統合し長野市綿内保育園となる。昭和45年山新田保育園と統合、平成4年園舎全面改築、平成12年一時保育事業開始、平成13年幼児組異年齢保育を開始、平成20年異年齢クラスと年齢別チーム活動を組み合わせた保育開始、現在に至る。

地域のことは地域で自らやっという前向きな考えの基、地域住民は当園に対する深い愛着を持つ中、様々な形で理解と協力のもとサポートしている。

当園としても地域との関係性を大切に、地域と繋がる「なっとう保育」を目指した保育運営を行っている。

現在当園には0歳児6名ひよこ組・1歳児9名うさぎ組・2歳児こあら組10名・ぱんだ組10名・幼児は3歳児20名・4歳児21名・5歳児20名を異年齢クラスとし、いちご組21名・めろん組19名・ばなな組21名計96名の園児と一時預かりのりんご組の8クラスがあり幼児組は年齢ごとのチーム保育も行い、それぞれの発達段階に合わせ保育をしている。

「言ってみよう」「やってみよう」「失敗してもいいじゃない」という当園の園目標の実現に向けて、子どもが自分に自信を持ち相手に思いや考えを伝える。・「やってみようかな」といろいろなことに興味、関心を示し試行錯誤しながら体験する、・失敗を恐れず挑戦するなど具体的な取り組みを行っている。

3歳以上児は異年齢保育を行う中で上年下の関わりを通して育ち合い、年上の子に対して憧れの気持ち、年下の子に対して思いやりの気持ちを持つなど人との関わりを大切にしている。また、年齢の保障もしており日中の遊びの中で年齢発達に合わせたチーム保育も取り入れている。室内外遊びの環境づくりを季節ごとに行い子どもが自ら遊びに入っていけるよう工夫している。

0歳、1歳、2歳児では保育士との愛着関係や応答的な保育を大切に、子どもの興味関心に沿ってコーナーを作るなど楽しい遊びの環境づくりを行い子どもが自ら遊びを選んで楽しめるようにしている。

一時預かり保育指定園であり保護者の就労、・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的解消等により未就園児を預かり十分に楽しんだり、園児と交流をしたり、保護者の子育て相談に応じるなどしている。

信州やまほいくの認定2年目を迎え天王山やめだか池、神社など様々な自然豊かな散

歩コースがありザリガニ釣りやどじょう釣りなど楽しみ飼育したり草花や木の実を採って飾ったり、遊びに使ったりしている。

園庭には畑があり野菜作りをして採れたサツマイモで焼き芋をして食べたり、地域の特産物であるレンコン作りを行ったりしている。

保育士不足が続いている中、中学生や高校生の職場体験や実習生など全ての方を受け入れ対話的指導を大切に未来の保育士養成に取り組んでいる。

一時預かり保育では未就園児を受け入れ保育し、子育て相談にも応じている。

世代間交流でレンコン栽培を行ったり、地域のお年寄りを呼んで音楽交流をしたり、介護施設等に出向き交流をしたりしている。また、地域のボランティアの読み聞かせなど定期的に行っている。

保護者のニーズに合わせて長時間保育や一時預かり保育、おひさま広場、障害児保育親子交流体験等を行っている。おひさま広場では未就園児と保護者対象に園解放及び子育て相談に応じる等している。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

① 地域連携の中で運営されている保育所

保育所は、大正 15 年に季節託児所として開設され以降、地域住民の子育ての拠りどころとされて来ている。「子どもは地域の宝」として地域全体で子どもたちを大事に見守っている土地柄にこの保育所は存在している。散歩に出掛けると地域の方々から沢山の声掛けがあり交流している。保育所の除草、園庭でレンコンづくりのための整備など地域の方々の協力が得られている。休日に子ども達は、地域の催しに参加した様子を保育所で得意げに話すなど、地域の中で子ども達が育てられている様子が伺える。民生児童委員会、地域の育成会議、地域子育て支援会議、地区行事準備会議などに施設長はじめ職員は出席して地域の福祉ニーズを把握しながら地域の活動に参加している。また、異年齢保育として、ねばねばと子どもや保護者、地域の方とつながっていけるように「なっとう保育」となづけ、毎日元気いっぱい、のびのびと過ごしている。地域の各関係機関と日常的に連携を図り、協力体制を築きながら地域と共に歩む保育所運営に努めている。

② 「信州やまほいく」の取り組みを通して

保育所は、「信州型自然保育」認定を受けて野外での遊びを重点的に行い 2 年を経過している。自然豊かな地域の地理的条件を活かして、里山を登る、地域住民が協力して管理する池（ビオトープ）神社などの多くの野外遊びができる散歩コースがある。池でザリガニやどじょう釣りを楽しみ、飼育をする。草木や花を使って遊びに発展するなど様々な体験をしている。自然の移ろいを感じ取り、身近な事象への関心を高める中で生命の不思議さや尊さに気づいてきている。野外で身体を動かす機会が多い子ども達は、転倒しても瞬時に手が前に出て身を守る姿勢が取られるなどの身体機能が培われて来ている。室内遊びの中でも、子ども達で協力し合い、相手を思いやる姿が多く見られて来ている。

◇特に改善する必要があると思う点

① 保育中の事故防止のための取り組み

職員は、保育に関わる設備、道具や備品類は日頃からマニュアルに添い安全点検を行い、安心・安全な環境整備に努めている。ヒヤリハット、事故報告の共有を図り、要因の分析、改善策を検討し、様々な事例に学んで再発防止に努め、リスクマネジメント体制を構築している。自然現象の下で変化する環境での事故発生を踏まえた施設内外の安全確保が大切になっている。子どもたちが散歩に訪れる池、里山、神社など全ての散歩コースの危険個所の再点検、外部からの不審者防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な策の対応が求められている。全職員の共通理解のもとに、家庭や地域の関係機関等の協力の下に安全指導・対策を深められることが期待される。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添1)

内容評価項目(別添2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合(別添3-1)

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント(別添4)

平成30年12月22日記載

第三者評価受審により自園の良い面と改善点を明確にすることができました。新たな気付きから全職員で改めて自分達の保育を深く見つめ直し、改善に向け取り組み、更により良い保育に向けて取り組んでいきたいと思えます。

この受審に向けて何より保護者の皆様の理解と協力に感謝すると共に、アンケート結果より保護者様の思いやニーズに対して真摯に受け止め、改善すべき内容については全職員一丸となり改善していきたいと思えます。また、少数の意見に対しても保護者様の気持ちに寄り添いできる限り対応していきたいと思えます。

当園は長い歴史と地域の大切な保育園であることを再認識し、今までの積み重ねや地域の思いを大切に守り伝えていきたいと思えます。また公立園としての役割を果たす中で、時代の変化を読み取り地域のニーズを大切にしたい保育運営を行っていききたいと思えます。その中で『対話』をキーワードに『子ども達一人ひとりの存在』を大切に職員同士が繋がる・子どもと繋がる・保護者と繋がる・地域と繋がる『なっとう保育』を深めていきたいと思えます。

最後になりましたが評価していただいたマシネットワークの皆様へ感謝いたします。